

科目ナンバリング		U-LAS60 10004 OJ17							
授業科目名 <英訳>	統合型複合科目（統合群i） ：大学で学ぶ YU02 Integrated Liberal Arts and Science with Small Group Seminars (Interdisciplinary Sciences i) :Introduction to University Study YU02				担当者所属 職名・氏名	国際高等教育院 特定教授 楠見 孝 高等研究院 准教授 藤田 大士 高等研究院 特定拠点准教授 猪瀬 朋子			
群	統合科学科目群			分野(分類)	統合科学		使用言語	日本語	
旧群		単位数	4単位	週コマ数	2コマ	授業形態	講義＋演習（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月5・水5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
教科書に書かれていることは常に正しいのか。論文で主張されている理論に弱点はないのか。専門家の見解は本当に妥当なのか。大学での学びでは、こうした問いが出発点となる。学術の世界では定説が覆され、複数の理論が対立し、新たな発見が従来の理解を書き換える。与えられた知識を獲得するだけでなく、自ら問題を発見し、既存の主張を吟味し、根拠を検証する。これが批判的思考であり、大学での学びに不可欠な姿勢である。 本統合型複合科目では、講義において、大学での学びの特徴や重要なスキル、それを支える批判的思考について学ぶ。そして、受講者は4つの少人数演習のいずれかに参加することによって、講義に関連するテーマを、討論や実習などを通してより深める。さらに、4つの少人数演習の担当者が講義においても、各1回の話題提供を行うことによって、全ての受講生が4つの演習のエッセンスを理解できるようする。 具体的には、講義では、第一に、大学での学びの特徴（1回）を理解し、そのために必要なスキルとしてリテラシー（2回）と、批判的思考を身につけることの重要性（4回）や知識習得と論理的な考え方(7回)を説明し、基本的なスキルを身につける。第二に、質問や発表の仕方(3回)、思考モードのシフト(5回)、インターネットや生成AIを活用した文献検索の仕方(6回)、学術書や論文の読み方(8回)、レポートの書き方(10回)について、身につける。第三に、辞典を批判的に活用すること、科学報道を理解することについて学び（9回）、文理を融合した思考法を身につける。 そして、上記の講義に関連したテーマについて、4つの少人数演習に分かれて、毎週並行して少人数演習に参加して、講義の内容をさらに深める。 11回、12回には、4つの異なる少人数演習の学生からなるグループに分かれて、合同演習を行う。講義に関連するテーマを自分たちで設定して、講義と演習で学んだことを踏まえて、議論を発展させる。13回、14回にはその成果を発表し、全体討論を実施して、まとめを行う。									
○統合型複合科目分類 【文・理】									
主たる課題について文系分野の要素が強く、副たる課題については理系分野の要素が強いと考えられるもの									
[到達目標]									
大学で学ぶための土台として、大学の学びの特徴と学問と研究活動の全体像を理解し、大学での学びにおいて重要な批判的な思考を身につけ、読解、質問、文献検索、研究、ライティング、発表など基本的スキルを着実に身につけることを目指す。									
[授業計画と内容]									
（この授業では、講義と少人数演習を併せて学びます。講義のみ、少人数演習のみの出席では授業の到達目標に達しません。なお、このシラバスでは共通の講義部分と、少人数演習・B班「1回生からの研究デザイン道場」（担当：藤田、猪瀬他）の授業計画と内容を記します）									
統合型複合科目（統合群i）：大学で学ぶ YU02(2)へ続く↓↓↓									

講義 月曜5限・（共北32）

- 第1回 イントロダクション：高校までの学びとの違いとは（楠見）
- 第2回 大学で学ぶとは：アカデミックリテラシーを身につけるには（楠見）
- 第3回 質問と発表のやり方について（佐々木）
- 第4回 批判的思考とは（楠見）
- 第5回 思考モードをシフトする：受動的課題解決から自発的課題発見へ（藤田）
- 第6回 文献検索にインターネット・生成AIを活用するには：デジタル・メディアリテラシー（楠見）
- 第7回 知識の修得とその活用—考えるとはどういうこと？（奥村）
- 第8回 批判的に学術論文を読むには（楠見）
- 第9回 辞書は信頼できるか，科学報道は信用できるか（宇佐美・沼田）
- 第10回 批判的にレポートを書く・発表するには（楠見）
- 第11回 合同演習1（4つの演習の学生からなるグループが最終発表に向けて活動）（楠見）
- 第12回 合同演習2（4つの演習の学生からなるグループが最終発表に向けて活動）（楠見）
- 第13回 4つの少人数演習の学生からなるグループが最終発表と討論1（楠見他）
- 第14回 4つの少人数演習の学生からなるグループが最終発表と討論2，まとめ（楠見他）
- 第15回 フィードバック（楠見）

Key Word: 批判的思考，アカデミックリテラシー，リサーチリテラシー

少人数演習

B班「1回生からの研究デザイン道場」（担当：藤田、猪瀬他） 水曜5限・総合研究1号館119号室

高等教育で得られる学びの中でも、「研究テーマをいかに設定するか」は研究者の資質に直結する重要な要素である。通常、このスキルは大学院博士課程レベルで培われるが、本セミナーでは初年度の学生でも、研究テーマの設定を学び、実践する機会を得られるように設計した。これまでは「与えられた課題」の解決方法を学んできた学生に、自らの課題を見つけ、研究の方向性を定める初歩的な経験を積む場を提供する。

「研究プロジェクト」のデザイン法は、高校まではもちろん、大学教育においても、講義を通じて体系的に教わる機会はない。これらは一般に、研究室に所属した後に、実経験を通じ、体得していく形になる。先端研究に取り組むためには、多くの知識、そして研究手法の理解が不可欠である。したがって、先にこれら知識をインプットすべきという姿勢は、カリキュラムとして一定の合理性がある。しかし、実際に研究プロジェクトのデザインに取り組み、研究手法の持ち札の少なさを体感した後でなければ、講義で教わる「先人達の知恵」「経験の蓄積」のありがたさも実感しづらい。これは、現カリキュラムが抱えるジレンマである。

そこで本セミナーでは、身近でわかりやすい課題設定（例えば、「夏休みの自由研究レベル」からスタートする）を、研究の現場で求められるレベルで議論、深掘りし、これら作業を通じ、受講生に「研究の世界」を疑似的に体験してもらう事を目的とする。学部での早い段階で、こうした「研究者の姿勢」を体験する事は、その後の教養、専門教育へのモチベーション向上にも繋がる。

本セミナーは、大きく4つのフェーズで構成され、それぞれのフェーズは「査読(*)」「実験計画立案」「課題設定」「研究デザイン」に対応する。各フェーズで与えられるテーマをこなすことにより、研究者の考え方を追体験。最終的には新しい研究プロジェクトを設計、提案できるようにする。各回ごとのテーマは、受講者それぞれに考えを練ってもらった後に、数人の受講者グループ内で議論。適宜、抽象化や統合を行った後に発表を行い、その思考プロセスや経験を参加者全体で共有する形式を取る。

統合型複合科目（統合群i）：大学で学ぶ YU02(3)

- 第1-3回 「査読」フェーズ
- 第4-6回 「実験計画立案」フェーズ
- 第7-8回 「課題設定」フェーズ
- 第9-13回 「研究デザイン」フェーズ
- 第14回 最終発表会
- 第15回 フィードバック & 研究室見学

[履修要件]

特になし。特別な予備知識は必要とせず，文系・理系を問わず全学部生向けに授業を行う。ただし担当教員はいずれも自然科学分野の教員であるため、関連分野の研究計画立案の方が専門性を発揮できる。

[成績評価の方法・観点]

講義については，14回の授業での平常点（出席と参加，課題提出の状況など）50％とグループ活動と最終発表で50％で評価を行う。講義と少人数演習をあわせた授業全体の成績は，1：1の割合で，両担当教員が相談して評価する。少人数演習における各評価項目の割合の詳細は，初回の授業で説明する。フィードバック授業は評価の対象外である。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

Lesley-Jane Eales-Reynolds 他 楠見孝, 田中優子 訳 『大学生のためのクリティカルシンキング: 学びの基礎から教える実践へ』（北大路書房）ISBN: 978-4762830884
他は授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

教科書，授業資料の要点を予習・復習する。

[その他（オフィスアワー等）]

授業で学んだことを，大学での学び全体に活かして実践して，振り返ることを期待する。
授業全体のオリエンテーションのための動画を公開するので，視聴しておくこと。詳細は KULASIS「全学共通科目」のお知らせを確認すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]